17th
REGULAR CONCERT

合唱団



合唱団 鯨京

F. Mendlssohn
CHRISTUS

H. Schroeder
MAGNIFICAT
MISSA PSALMODICA

G. Verdi
TE DEUM

1974. 10. 14. P.M.7：00　日比谷公会堂

指揮
中村　健

独唱
T 佐々木正利
B 桜井　直樹
B 高橋　章夫
S 高江洲由記子
S 高山　美信

合唱
合唱団 鯨京

管弦楽
新交響楽団

賛助出演
東京大学法学部緑会合唱団

ごあいさつ

私達，合唱団　鯨　の演奏会においで下さったことに心から御礼申し上げます。

7年前，芥川也寸志氏によって作られた私共のコーラスは，日本人の生活の中に音楽をとけ込まそうと云う心意気で，家庭の奥様をはじめ，学生，サラリーマン，ＯＬなど 100人を越えるメンバーが，精一杯頑張ってまいりました。

ところで，日本では，サラリーマンとゴルフ焼けした部長などの間によく交される会話,「演奏会のための合宿に行きたいので，一日だけ休暇をお願いします。」

「君もいい年をしてコーラスなんか良くやっているな。」

これは，欧米に遠く及ばない社会の音楽に対する理解度の低さを如実に物語っていると云えましょう。

しかし，最近ではピアノのある家庭が急激に増え，昭和生まれのママやパパが，おじいちゃま，おばあちゃまになる頃には，きっと一般社会での音楽の理解度が今とは比較にならない程に深まるものと信じております。

そのために，私達も，これから力の限りをつくしてまいります。プロには出来ない所迄力一杯，真心をこめて歌うことが会場の皆様と一緒に心から感動し合えると云うアマチュア合唱団の魅力を発揮できるものと確信しております。

よく,「変った名前の合唱団だ。」と云われますが,「鯨のように大きな夢を抱いて」と云うのが私達のモットーです。

合唱団　鯨　が,これから大きく成長するためにも,皆様方から，忌憚のない御意見と御批判を頂ければ，本当に幸せです。

本日，共演する兄貴分の「新交響楽団」ともども今後共，宜敷くお願いいたします。

お忙しい中を御来場下さいましたことを，重ねて厚く御礼申し上げます。

指揮　中村　健



1950年，神戸に生まれ，10才の頃より神戸中央合唱団の伴奏をする。1972年，合唱団「鯨」の常任指揮者に就任。

1973年東京芸術大学音楽部作曲科卒業，同年同大学院指揮専門課程入学。在学中。Vögelein Chor の指揮者となる。作曲を長谷川良夫・小林秀雄・飯田正紀，指揮を金子登・Erbin Born・三石精一の各氏に師事。

五十嵐喜芳氏・成田絵智子氏・友竹正則氏等のピアノ伴奏者として各地で共演。「チェロ・ソナタ」「木管五重奏曲」「八重奏曲」ソプラノとピアノの為の「長いお芝居」「オーケストラの為の小協奏曲」等の作品がある。



ピアニスト　小野悦子



1973年東京芸術大学器楽科卒。小林仁氏及び福井直俊氏に師事。現在，武蔵野音楽大学講師。武蔵野高等学校講師今年の５月に出身地の大阪に於いてデビューリサイタルを開き，活躍中である。

発声指導　桜井直樹



京都市出身。1973年東京芸術大学声楽科卒業。同年同大学院ソロ科入学。在学中。畑中良輔氏に師事。1972年神戸中央合唱団・メサイヤ出演。二期会研究生ヴォーカルコンサートに出演。アマチュア合唱団の発声指導者でもある。

テノール　佐々木正利

1974年，東京芸術大学声楽科卒業，同年同大学院ソロ科入学。在学中。須賀靖元氏，小林道夫氏に師事。

昨年芸大メサイヤのテノールソリストとしてデビュー。宗教音楽に特に深い関心をよせ，東京ゾリステン，小林道夫氏等とも共演，好評を博している。本年の読売新人演奏会に出演。サッカー・バスケットボール・野球などあらゆるスポーツで鍛えた体軀から響く本格的なテノールは，各方面より期待されている。

バリトン　高橋章夫

合唱団鯨創立の翌年に入団以来，委員長や技術委員長を勤め，ソリストとしても活躍昨年仕事の関係で退団。

ソプラノ　高山美信

ＣＭＡ合唱団に所属し，同時に鯨の団員でもある。その迫力のあるドラマチックな歌い振りは素人離れしている。

ソプラノ　高江洲由記子

沖縄県出身。鯨に入団して１年５ヵ月。彼女のスラリとした長身から溢れる声は，清らかで美しく人を魅了する。

管弦楽　新交響楽団

昭和31年アマチュアオーケストラとして創立。音楽監督常任指揮を芥川也寸志氏。副指揮は先頃ブタペスト国際指揮者コンクールで優勝した，小林研一郎氏。約 100人の団員によって構成され，団員が納得出来る演奏をすること，そして新響を聴く人々の共感を得られる演奏と活動をするという意識のもとに，プロのオーケストラに無いものを打ち出そうと努力している。鯨とは姉妹団体であり，これまでにも何度か共演している。

東京大学法学部　緑会合唱団

昭和31年７月創立。現在男声が東京大学，女声が御茶の水女子大学，共立女子大学，及び日本女子大学から成る混声合唱団である。常任指揮に桐朋学園大学講師の高階正光氏。そして，発声指導は，東京芸術大学院オペラ科に在学中の山口俊彦氏，並びに氏の夫人である，山口悠紀子氏。

来たる12月９日（月曜日）虎ノ門ホールにおける「ベートーベン・ミサハ長調」他による，第18回定期演奏会を目指し，練習に励んでいる。



“鯨„ 新響<第九>演奏会

鯨の紹介

その名の示す通り，大きな夢を抱いて1967年12月に誕生した　合唱団「鯨」は，荒波にもまれながら満７年を迎えようとしております。兄弟分の　新交響楽団に比べまだ未熟の面もありますが，今年になって寅年ならぬ鯨年のような素晴らしいエネルギーが団員一人一人によって生みだされ，いまや大海原に向けて泳ぎ出せるようになりました。

最近，入団されたメンバーが言われたように「少しも気取らない雰囲気」が鯨の特徴の一つでしょう。

100名を越す団員，指導者が一丸となって，音楽を創造するアマチュアのなし得る限界に思い切り挑戦しております。

次回の演奏会では，さらに大きく成長すべく努力を重ねてまいります。

鯨のあしあと

'68年　第１回演奏会「狩人の合唱」他，ファミリーコンサート「赤いサラファン」他，第九

'69年　オラトリオ「四季」，サマーコンサート「誰も知らない悲しさ」他，メサイア

'70年　ポピュラーコンサート「ラ・ノビア」「白い恋人たち」他，天地創造，カルミナブラーナ，第九

'71年　レクィエム演奏会（武満徹，フォーレ，モーツアルト），ファミリーコンサート「白い恋人たち」他，第九

'72年　ブルックナー演奏会「テ・デウム」「ミサ曲第３番」，第九

'73年　荘厳ミサ，〝楽しいコーラス演奏会〞，第九

'74年　パイオニア・イブニングコンサート「テ・デウム」（ヴェルディ）

I　Felix Mendelssohn（1809～1847）

未完成オラトリオ“CHRISTUS”

訳詞（中村　仁策／中村　健）
編曲　中村　健

Soprano　高　山　美信
Tenor　佐々木　正利
Bariton　桜　井　直樹
Bass　高　橋　章夫

オラトリオ“ELIJAH”Op 70より

No.26　アリヤ　‘It is enough’　Bariton　桜　井　直樹

No.28　合　唱　‘山を見上げよ’
（訳詞　中田 羽後）

No.29　合　唱　‘主は　まもりたもう’
（訳詞　中村 仁策）

オラトリオ“St. PAUL”Op 36より

No.7　アリア　‘Jerusalem’　Tenor　佐々木　正利

No.2　合　唱　‘主こそはわがよりどころ’
（訳詞　中村 仁策）

II　Hermann Schroeder（1904～　　）

“MISSA PSALMODICA”より

‘ Kyrie’

‘ Credo’

“MAGNIFICAT”

III　Giuseppe Verdi（1813～1901）

“TE DEUM”

Soprano　高江洲　由記子

賛助出演

東京大学法学部緑会合唱団

指　揮　中村　健

管弦楽　新交響楽団

CHRISTUS

I Recitative
ユダヤの小さなこの町，ベツレヘムに，
イエスが生まれたときに，遠き東の国より，三人の博士が贈物をもって，ベツレヘムへ向いました。

II Trio
星よ，こたえておくれ。ひときわ輝く星よ。われら，ユダヤの王として生まれし人は今，何処。星よ，おしえておくれ。
お前の光でわれらを導け。
われ行きていとしごを，われ拝まん。

III Chorus
ヤコブの星の下に救い主が生まれる。
弱きを救い，悪魔をうち，われらの罪を許し。
明けの星のごと，望みと慰め，主は与えたもう。救いを与えよ。
主はほむべきかな。

IV Recitative
群衆はいきり立ち，イエスをピラトに，引き渡した。

V Chorus
この男は神の子と名のり，イスラエルの王と名のり，偽りをのべ，われらを惑わし，騒がし，イスラエルの王と名のる。

VI Recitative
ピラトは群衆に向って叫んだ。
イエスに罪はない。一体いかなる罪をおかしたと言うのだ。

VII Chorus
この男は神の子と名のり，われらを惑わして，民を騒がして，偽りをのべ，
この男は，シーザーにはむかい，
ユダヤびとを惑わして，騒がして，偽りをのべ，われらを惑わして。

VIII Recitative
ピラトはふたたび群衆に言った。
イエスを許そう。彼には罪はないのだ。

IX Chorus
殺せイエスを，イエスを殺せ。
バラバを，バラバを助けよ。バラバを。

X Recitative
それではイエスを鞭打ち，許そうではないか。殺すことはない。

XI Chorus
イエスを，イエスを，イエスを十字架に。

XII Recitative
それではお前たちに，引き渡そう。
無実の彼を十字架にかけるがいい。

XIII Chorus
神と名のる者は，皆十字架に。
それがわれらの法律。

XIV Recitative
群衆はイエスを罵り，鞭打ち，十字架をおわせ，ゴルゴダへ連れて行った。
しかし，その道には心やさしい娘達がいた。イエスはやさしく声かけ

XV Chorus
シオンの娘，涙はお前の子どものために，
私は神の国へ，シオンの娘，嘆くな。
やがて都に，このエルサレムに滅びの日が来る。シオンの娘，涙はお前の子どものために。熱い涙は子どものために。

XIX Chorus
地の罪をおいて，主は苦しみを忍びたもう。十字架の苦しみを世のため受けし，
主をほめたたえなん。
悔改めと信仰によりて主，救いたもう。
主のあがないにより，世を救い，助けたもう。つきせぬ主，たたえなん。

Elijahより

"Lift thime eyes"
山を見上げよ，助けは何処方より来たるや。天地創りたまいし主よりぞ。
ながみを守るものは，まどろむことなく，眠ることもなし。
山を見上げよ，助けは何処方より来たるや，何処方より来たるや，

"He watching over Israel"
主は守りたもう。まどろまず。
われ嘆きて，うち沈める時に，主イエスはわれに力を，力を与えなん。
主は，与えたまわん，御力を。

MAGNIFICAT

わたしの魂は主をあがめ,
わたしの霊は救主なる神をたたえます。
この卑しい女をさえ，心にかけて
くださいました。
今からのち代々の人びとは,
わたしをさいわいな女と言うでしょう。
力あるかたが，わたしに大きなことを
してくださったからです。
そのみ名は清く,
そのあわれみは，代々限りなく
主をかしこみ恐れる者に及びます。
主はみ腕をもって力をふるい,
心のおごり高ぶる者を追い散らし,
権力ある者を王座から引きおろし,
卑しい者を引き上げ,
飢えている者を良いもので飽かせ,
富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。
主は，あわれみをお忘れにならず,
その僕イスラエルを助けて下さった。
わたしたちの父祖アブラハムと
その子孫とをとこしえにあわれむと
約束なさったとおりに。
父と子と聖霊とにみ栄あれ,
初めにあったように，いまも，いつも,
代々限りなく。
アーメン。

TE DEUM

神なるおん身をわれらはたたえ,
主なるおん身をわれらは讃美します。
永遠のおん父なる
おん身を全地はおがみます。
すべての天使も，天とすべての権力ある者も，おん身に向い,
ケルビムもセラフィムもおん身に向い,
絶えまなく声高らかにうたいます。
「聖なるかな」
「聖なるかな」
「聖なるかな，万軍の神なる主」
「天も地も，おん身の栄光ある御霊威に満ちている」と。
かがやく使徒の群れもおん身を,
予言者のとうときあつまりもおん身を,
清き殉教者の一軍もおん身をたたえ,
全地にあまねき聖会も
おん身を讃美したてまつります。
限りなき御霊威のおん父,
いとたかきおん身の真のおんひとり子。
聖にして慰めぬしなる聖霊とともに。
おん身，栄光の王なるキリストよ,
おん身こそ，おん父の永遠のおん子。
おん身は，世を救うため人となろうとして，おとめの胎をもいとわず,
おん身は，死のとげにうちかち,
信ずる者のために
天国を開きたまいました。
おん身は，おん父の栄光のうちに,
神の右に座したまい,
さばき主としておいでになると，信じられたまいました。
おん身に願いをたてまつります。
尊きおん血をもってあがないたまいしし
おん身のしもべを
助けてくださいますように。
（そのしもべを）おん身の諸聖人と共に
栄光のうちに数えて下さいますように。
主よ，おん身の民を救い,
おん身の世つぎを祝し,
かれらを治め，また永遠に至るまで,
かれらを高く導きたまえ。
われらは，日々おん身に感謝し,
おん身のみ名を世々に，また代々に至るまでたたえたてまつります。
主よ，この日われらが罪を犯さないようわれらを守りたまえ。
主よ，われらをあわれみたまえ。
われらをあわれみたまえ。
主よ，おん身により頼んでいますわれらの上に,
おん身の慈悲を垂れさせたまえ。
主よ，われらはおん身により頼んでいます。
われらの望みは永遠にむなしいものとはならないでしょう。

Mendelssohn はその数々の交響曲やピアノ曲，それに例の珠玉ヴァイオリン協奏曲などの作曲家としてあまりにも有名であるが，ピアノやオルガン奏者，或いは指揮者としても目覚ましい活動を行っている。特に指揮者としては自作や同時代の作品などの初演の間をぬって，Händel やBachの作品を意欲的にとりあげている事は誠に興味深いことである。とりわけ 100年もの間忘れられていたBach の音楽，「マタイ受難曲」を彼の死後初めて再演することによって人々に紹介したことは，音楽史上極めて重大な事件である。BachやHändel とのそういったかかわりあいは，彼にオラトリオ創作活動のきっかけと充分すぎる程の示唆を与えている。彼の３つのオラトリオ，即ち本日演奏される「パウロ」「エリア」それに未完成に終わった「クリストゥス」は，いずれも両巨匠の大きな影響を受けている。

1836年，27才の年に完成した「聖パウロ」に於いては，Händel 風の独唱や合唱，Bach 風のコラールが彼の中で充分に消化されていることがわかる。使徒パウロの生涯を，若々しい響きで描いており，聖書より選ばれたテキストは，当然ながら使徒行伝を中心として抽出されているが，手紙や福音書，黙示録等の新約聖書にとどまらず，広く旧約聖書にも及んでいる。７番のアリアは，本来，ソプラノの為にかかれたものであるが，本日は，テノールによって歌われる。２番の合唱は序曲の次に演奏される，いわば開幕の合唱である。前者はマタイによる福音書，後者は使徒行伝をテキストにしている。

順不同になったが，その1846年以降にはもう筆を加えることがなかったであろう未完成オラトリオ「クリストゥス」は，前の２曲ほどの雄大さはないが，密度の濃い佳品で簡潔な手法によって手際よくまとめられている。「クリストゥス」はヘブライ語の「メサイヤ」にあたる言葉であるが故に，Händel を充分に意識している事はもちろんであるが，内容的にはBach により多くのよりどころを求めている。テノールのレシタティブはBach の受難曲のエヴァンガリスト（聖書朗詠者）のスタイルの継承であり，コラールの四声体の響きもあきらかにBach を範としている。その他随所にBach の後継者たらんとする彼の姿勢が表われているが，十字架という言葉がでてくるところで，Bach は必ず＃を譜面上にちりばめている（その形状の相似の故に，そして十字架も＃もドイツ語ではdas kreuz)ことまでは気がつかなかった様である。

「エリア」の作曲と度重なる上演によって既に体力の限界にあったMendelssohnは，1847年最愛の姉の死によって精神的にもその支えを失い，ついにその年の秋，38才の生涯を終えるのである。その為，この曲もキリストの受難で終わっており，伴奏もピアノ譜にとどまっている。

「リゴレット」「椿姫」「アイーダ」等の歌劇によって，既に不動の地位にあった**Verdi** は，1874年，60才にして完成した「レクィエム」の作曲と上演によって肉体的にも精神的にも疲労し，遂に隠居生活を決意する。その「レクィエム」は，Verdi 自身も彼を知る全ての人々も，彼の最後の作品であろうと思っていた。そしてその予想を裏切って？「オテロ」（1887）と「ファルスタッフ」（1893）といった，より充実し全く新しい境地に達した歌劇を発表するのであるが，本日演奏される「テ・デウム」はそれらのさらに後，1896年に作曲されている。それは２年後，同時に作曲した「悲しみの聖母」「聖母マリアへの讃歌」そして少し前に作られた「アベ・マリア」と共に，「四つの聖歌」の終曲としてまとめて発表されている。

「レクィエム」を含む，彼のすべての音楽経験を投入した「テ・デウム」は四つの「聖歌」の中でも最も重要なもので，新しい，完全に変容した巨匠の姿を見出すことができる。そこには，Beathoven に於ける晩年の「弦楽四重奏曲」と共通するものがある。「テ・デウム」に於ける素晴らしいダイナミックなコントラストと，いかにもオペラ作曲家らしい雄弁な施律は，「レクィエム」同様，教会音楽という概念の範囲を超え，私的な信仰告白ともいうべきものであるが，必ずしも劇場用に作られてはいないという点で「レクィエム」とは著しく相違しており，遙かに充実した精神と精致な技巧が宿っている。冒頭のグレゴリオ聖歌と弱奏に終るコーダは，これ以上望めない程の簡潔な手法でかかれているが，それがいわゆる画像とはならず，無限の世界との橋わたしとする事に成功している。これは，少数の作曲家が少数の作品でしか成し得なかった偉業である。

以後心身共に減衰の一途をたどる Verdi は，遂に1901年神に召されるのであるが，その死の床で家族や友人達にこう語っている。

――私が死ぬ時は，必ず「テ・デウム」をこの枕の下へ入れてほしい。私は神に慈悲を請いながら，「テ・デウム」をくちづさんで天国へ行きたい。――

Hermann Schroeder，殆んど日本に紹介されていない彼については，我々も若干の辞典や紳士録を通して知るのみである。それらによると，『1904年モーゼルに生まれ，インスブルック大学及びケルン高等音楽学校を卒業後，ケルン市を中心に，聖歌隊長，オルガニスト，作曲指揮活動，教育活動等で多忙な毎日をおくっており，現在ドイツカトリック音楽の指導的立場にある。作品には多くの教会音楽（合唱曲，オルガン曲等）の他に，歌劇・管弦楽曲・器楽曲・映画音楽等があり，教育の為の著作も数多い。』となっている。

彼の作風については，本日演奏される２曲の楽譜からわずかにかいま見るにとどまるが，この２曲を通しては，西洋音楽の根源ともいうべきグレゴリオ聖歌と非常に密接な関係が指摘できよう。聖歌の施律をただ借用するのではなく，その本来への精神，ニュアンスの領域にまで立ち入り，さらには聖歌自身の根源である東方の響きさえ導入して，他に例をみない独得の世界をつくり出している。Berlioz Respighi，それに Verdi 等，グレゴリオ聖歌を作品にとり入れた作曲家は数多いが，そのいずれもが聖歌を自らの響きの中にモチーフとして導入したにとどまっているのと対照的に，彼は，グレゴリオの世界の中に自らの音楽を響かせたということがいえよう。

この傾向は，Purcell を充分に意識したであろうイギリスの Britten, Pelestrina を範としたイタリアの Pizzetti らの合唱作品，或いは「Bach に帰れ」という合い言葉のもとに新古典主義を展開した Hindemith や Stravinsky らの諸作品と一脈通じるものがあるとはいえ（これらは時代的にほぼ一致している。），どの派にも属さぬ独自の音楽を形成している。

「ミサ・サルモディカ」は無伴奏の混声合唱である。比較的ホモフォニーでかかれている部分，グレゴリオ聖歌の単施律が若干のポリフォニーで展開される部分に大別できる。「キリエ」は前者の，「クレド」は後者の典型である。

「マニフィカート」は７本の金管楽器（又はオルガン）の伴奏を伴う混声合唱でガブリエリを彷彿させる金管の響きと，グレゴリオ聖歌をとり入れた合唱との対話の妙は，筆舌に尽くしがたい。

がんばれ“鯨„　新響理事長　戸田昌広

鯨は乱獲がたたってその数が激減し，今では世界各国が補獲制限をして手厚い保護を受けるに至っています。図体が大きいだけでなく中味も濃く利用価値が高いために特に日本にとっては貴重な海の資源です。

一方今日演奏会を持った，合唱団〝鯨〟はどこからも手厚い保護など受けないで自分達だけで生きている正真正銘のアマチュア団体ですが，本日共演する我々〝新響〟も又同じようなアマチュア団体です。

世に合唱団の数は，雨後の竹の子の如く沢山ありますがたいがいもっともらしい，何やらむずかしそうな名前がついています。しかし〝鯨〟なんていう音楽とはどう考えても結びつかないような名前の団体は聞いたことも見たこともありませんが，この面白い名前の合唱団の団員諸氏はどのように思っておられるのか一度聞いてみたい誘惑にかられます。

しかしよく考えてみると〝鯨〟という名前はこの合唱団の理想，目的などを誠に単的に表わした名前だと思います。大きいことはいいことだ，しかし大きいだけでは駄目であり鯨（本物）のように頭の先の歯から尻尾まですべて利用価値があり，あの大きな図体に中味が一杯つまっているなんていうところが鯨の鯨たるゆえんであります。

この合唱団が名前の通りであるかどうか，実は私も余り詳しくは知りませんが，聞くところによると，少なくとも栄養失調ではないことは確かなようです。

新響との共演はもう数えきれない位やっており，一番気心の知れた合唱団でありこれからも永くよいパートナーとして助け合っていきたいと思っております。そして〝鯨〟に押しつぶされないように我が新響も大きく強くなっていくよう頑張ります。

今年の暮は第九公演を行なわないために共演は出来ませんが，来年の12月には２年分のエネルギーを第九にかけようと楽しみにしております。

共演にあたって　緑会合唱団

第17回定期演奏会を，心よりお祝い申し上げるとともに本日の「テ・デウム」のステージで御一緒させていただく光栄を厚く御礼申し上げます。

合唱団「鯨」と当緑会合唱団との結びつきは，７月のパイオニア・コンサートに於ける同じ「テ・デウム」の共演に遡ります。そして，今日，再びあの感動を共感し得るのであります。さらに，12月９日に予定しております当緑会合唱団第18回定期演奏会で我々は３度「テ・デウム」に挑戦するのですが，当日のテ・デウムは，オケ用譜面をピアノ２台に編曲したもので，この編曲もまた，合唱団「鯨」の常任指揮者でいらっしゃる中村健先生にお願いいたしたものです。この様に我々緑会合唱団の今年度の活動は，まさに，合唱団「鯨」とともに，「テ・デウム」をコンセンサスとして歩んできたと申しても過言ではないでしょう。学生合唱団と一般社会人合唱団の差異はありましても，共に合唱を愛し，合唱を通じてそのむこうにある何かをつかまんと常日頃目ざしている者として，この半年間，共通のテーマを目標とでき，多くの事を学ばしていただきました。職場も，出身も全く異なり，一人の社会人としてそれぞれ責任ある地位にいらして多忙な人々が，「歌いたい」という唯一の意識のもとに週一回二時間余の限られた時間の練習で，あの７月からわずか３ヵ月の今日，再びこの様なコンサートを開かれるヴァイタリティーに，我々も刺激されずにはいられません。今宵は，緑会合唱団も合唱団「鯨」もなく，同じ「合唱を愛する者」として，崇敬する中村健先生の指揮棒に全てを倭せて思いきり歌いたいと思います。

最後に，本定期演奏会の成功と，合唱団「鯨」の今後の活動がさらにクレッシェンドなさる様にお祈りいたします。

<団員募集>

鯨一同あなたを待っています。
ぜひ一度練習場へおこし下さい。

指揮者　中村　健
練習は　毎週火曜日　P.M. 6：30～9：00
場所は　カワイ楽器渋谷ショップ　7F
　　渋谷駅北口より歩いて5分

お問い合せは 357－5255　鯨事務所へ
　　（火曜13：00～17：00）

<次の演奏会予定>

△'74.11.26（火）
東京カテドラル教会
立教大学オーケストラ第九演奏会に出演

△'74.12.25（水）
共立講堂
ＯＢ交響楽団第九演奏会に出演
指揮　小林研一郎

■ プログラム編集　　責任者：川畑洋一
川畑洋一・玉井和幸・中村学・出津安代・大木淑子・下田悦子・屋代みどり・杉山まゆみ

フェーゲラインコール第15回演奏会

- Mozart　宗教小品集
- Ravel　3つのシャンソン
- Monteverdi　アリアンヌの嘆き
- 宇野誠一郎曲　マザーグースの黄色いたまご(倭嘱作品)
  熊倉一雄構成演出

指揮　中村　健

11月19日(火) 19：00　日比谷第一生命ホール
￥700（全席自由席）

チケットの御用命お問い合わせは 363－6065　印枚(かねまき)まで

HYFAX

ホール音響装置

プロフェッショナル音響装置の専門メーカーです



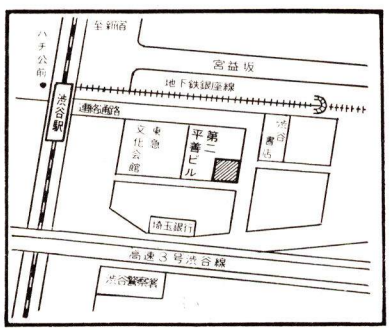
東京・神奈川地区の代表的な納入先
厚生年金会館
明治座
日生劇場
朝日生命ホール
イイノホール
日　佛　会　館
東京郵便貯金会館
西　武　劇　場
横浜市文化体育館
神奈川県青少年センター
小田原市民会館
狛江市民会館
←ホール音響調整室

不二音響株式会社

本社　港区西新橋２丁目５－10　TEL501－3161

珈琲・洋酒・音楽

kanon



東京都渋谷区渋谷２－21－22
第二平善ビル2階　☎ 406－0826

大衆酒蔵

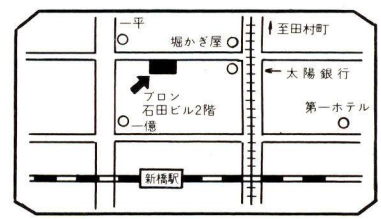
ニュー信州

4～70人様までのご宴会。
お１人様 1,000円から
お承り致します。

渋谷神宮通り丸井横
電話（464）5696

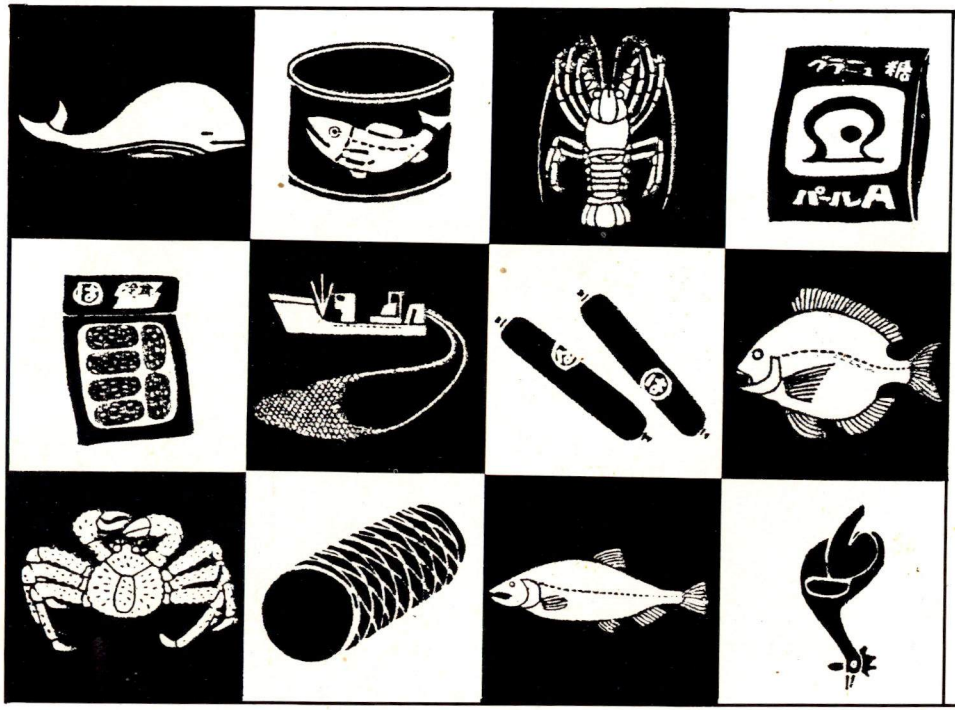
BLOND

歌のお店



皆様で楽しく歌える
明るいお店です。

港区新橋２－８－16
電話（591）6033





おいしい味みつけたときは
とてもうれしいものです。
あなたとお好きな曲との
出逢いのように

世界のおいしさをアレンジする
は
大洋漁業

● あいつも来ているウエストパーク

ウエストパークは680席のらくらくスペース。至る所にユニークな
ムードがあふれています。どんなご宴会(パーティ)も、より豊かに、
より楽しく、ハッピーに演出します。

◆御家族連れにウエストパーク
適度にはずんで，適度に優雅な場所です。のめる方にものめない方にも。

◆サウンド
当パークが皆様におくる２バンド！　連日ベタ演です。お楽しみにどうぞ。

◆営業時間
平日　P.M. 5：00～／土．日．祭P.M. 1：00～／年中無休

《うまみとコク》のレジャーパーク

池袋西口
ロサ会館３F
☎ 982－4003
982－0982

ウエストパーク

